

はじめに―動いている外国人受け入れ政策 7

● 牲川 波都季

- 二〇一八年問題と二〇二五年問題 7 / グローバル人材の獲得 7 / 日本語学校という入り口 9 / 外国人介護人材・看護人材の獲得 11 / 「特定技能」の新設 13 / 本書の出发点と目的 16 / 各章の執筆時期 17

第1章 職業としての日本語教師―「奨学金返済ができないから夢をあきらめます」から考える 19

● 有田 佳代子

- 一 現況―日本語教師の「売り手市場」と若者の日本語教育離れ 21
  - 二 労働条件・労働環境の不安定さ 23
  - 三 改善を阻む要因 26
  - 四 わたしになにができるだろうか―当事者としての今後の課題 32
- 言語教育政策の不在 27 / 日本語教師とジェンダー性 28 / 「聖職者」的教職観と「補佐的学問」視 29 / 日本語教育関係者内部での信念や利害をめぐる対立や分断 31
- 「日本語教師養成」について 33 / 日本語母語話者（≠「日本人」）への積極的な働きかけ 34 / 日本語を学び教えることの意味についての議論 34 / 日本語教師の、小さな気軽な連帯 35

イントロダクション 37 / 日本語学校の未来は暗いのか 38 / 日本語教育推進基本法案に学界はどうかかわったのか 43 / 「特別の教育課程」化された日本語教育は誰が担うのか 46 / 英語教育界は政治に働きかけているのか 53

## 第2章 学習者の変化に対応しポストを守るための留学生日本語教育と〈やさしい日本語〉 57

### ●庵 功雄

- 一 はじめに 58
- 二 留学生日本語教育を取り巻く環境の変化 58  
学習者の変化 58 / 大学の留学生獲得戦略の変化 60 / 「変化」が含意すること 60 / 何をなすべきか 61
- 三 〈やさしい日本語〉について 62  
二種類の〈やさしい日本語〉 63 / 居場所作りのための〈やさしい日本語〉 63 / バイパスとしての〈やさしい日本語〉 66
- 四 文法シラバス見直しの必要性と新しい文法シラバス 67  
産出のための文法の必要性 67 / 現行の文法シラバスの問題点 68 / 新しい初級文法シラバスの理念 69
- 五 言語習得観転換の必要性（初級） 70

初級に対する新しい考え方 71 / 新しい初級とそれがもたらすもの 72 / テキストの真正性と学習者の動機づけ 74 / コンピューター化 (computerization) と語学教師 75

六 テニユアポストを守るために 76

七 おわりに——〈やさしい日本語〉の可能性 77

### デイスカッション2 日本語教師の専門性は守れるのか 79

「内容重視」は日本語教師の専門性を高めるのか低めるのか 79 / 日本語教育の大学専任ポストはどうすれば守れるのか、なぜ守らなければならないのか 86 / 英語教育の大学専任ポストは今後必要とされ続けるのか 89 / 「やさしい日本語」は日本語教師の専門性を高めるのか低めるのか 94 / 日本人に「やさしい日本語」の意義を伝えるには 96 / 「やさしい日本語」は日本語を壊すのか 100 / マジヨリティは「やさしい日本語」を使おうとするのか 102 / A I時代に日本語学習者を確保するには 105

## 第3章 ポリテイクスの研究で考慮すべきこと——複合的合理性・実態調査・有効性研究 109

### ●寺沢拓敬

一 複層的な合理性 112

小学校英語政策 113

二 「実態」の理解の仕方 117

量的な実態調査 117 / 各国民の平均的英語力 119 / 英語使用ニーズ 120 / 質的な実態調査 122

三 有効性 125

「示唆」という言葉、禁止のすすめ 126 / 因果モデルで政策を考える 127

四 さいごに 130

デイスカッション3 言語教育政策研究は必要なのか 131

英語教育政策・日本語教育政策の研究者は育っているのか 131 / 「合成のパラドクス」は日本語教育でも起こっているのか 134 / 質的研究の質は高いのか 135 / 日本語教育・英語教育の困難を露わにするためには 140

まとめに代えて——政策を動かす日本語教育のために 145

● 牲川 波都季

明らかにになった「特定技能」の運用方針 146 / 「日本語能力判定テスト（仮称）」の準備 147 / 来日後の日本語教育支援 149 / なぜ今、日本語教育機関の審査が厳格化されるのか 150 / 政策を動かすには 154 / おわりに 157

文献一覧 159

## はじめに――動いている外国人受け入れ政策

牲川 波都季

### 二〇一八年問題と二〇二五年問題

二〇一八年には十八歳人口が減少に転じ、二〇二五年には団塊の世代が全員後期高齢者（七五歳以上）になります。この目に見える数値上の変化は、二〇一八年問題、二〇二五年問題と呼ばれており、少子高齢化が日本社会に問題をもたらすことは、避けられない現実のように思えます。日本が小さくなっていくというイメージを思い浮かべると、日本の経済活動を維持するために、外国人の受け入れ推進政策を矢継ぎ早に導入する政府の動きにも納得させられそうです。

外国人受け入れを推進する政策は、ここ一〇年で一気に加速しましたが、羅列的になりますが、本書の前提として関連政策を書きとどめておきたいと思えます。

### グローバル人材の獲得

二〇一八年問題に関連するものとしては、外国人留学生数を三〇万人にしようという「留学生三〇万人計画」が二〇〇八年に発表されました。二〇二〇年度までの達成をめざし、高等教育機関を主な対象として一連のグローバル人材育成推進事業が実施されてきています。

## 第1章 職業としての日本語教師

——「奨学金返済ができないから夢をあきらめます」から考える

# 有田 佳代子

来日する留学生が近年急増し、日本語教師の「売り手市場」ともいえる現況である一方、若者の「日本語教育離れ」も同時に指摘できます。若者が日本語教育界へ容易に新規参入できないのは、端的に言って雇用条件や労働環境の不安定さに原因があります。この第1章では、一九九〇年代から指摘されてきたこうした問題点が、なかなか改善されない要因について考えます。そして、わたし自身を含む当事者としての日本語教師は、また日本語教員養成にかかわる者は、今、何ができるのかを考えていきます。

キーワード 留学生三〇万人計画、若者の「日本語教育離れ」、日本語教育現場の労働環境

## 第2章 学習者の変化に対応しポストを守るための

### 留学生日本語教育と〈やさしい日本語〉

# 庵 功雄

現在「留学生センター」が対象とする学習者の中には、設立当初の想定とは異なり、必ずしも日本語学習の動機づけが高くない者が増えてきています。一方、大学の留学生獲得戦略の変化に伴い、留学生教育を英語で行う「英語シフト」の流れも生まれてきています。こうした「留学生センター」を取り巻く状況の変化の中で、これまでと同様の留学生教育を行っていくことは、「日本語教育の専門性」を主張することを難しくし、結果的に、「留学生センター」のテニユアポストを失うことにつながりかねず、そのことは、日本語教育研究に関する諸分野の消滅につながりかねません。第2章では、こうした問題意識のもと、〈やさしい日本語〉の観点から、初級から学習者の動機づけを高めるための新しい文法シラバスと、それに基づく新しい初級教育のモデルを示しました。また、〈やさしい日本語〉が日本語母語者にとって持つ意味とその観点から日本語教師の存在意義を高める方策についても考えました。

キーワード 動機づけ、英語シフト、テニユアポスト、〈やさしい日本語〉、文法シラバス、新しい初級

### 第3章 ポリテイクスの研究で考慮すべきこと

#### ——複合的合理性・実態調査・有効性

## 寺沢 拓敬

本稿では、言語現象におけるポリテイクスを研究する上で有用な三つの理論的・方法論的観点を提示します。三つの観点とは、(一)複合的な合理性、(二)「実態」を明らかにすることの困難さ、そして(三)有効性・因果モデルです。この点について、英語教育政策の研究を例にしながら論じます。先行研究では、上記の観点が満足に考慮されてきておらず、そのため質の低下を招いていました。こうした問題点を把握することで、よりよいポリテイクスの研究をいかに構築していけばよいか論じます。

キーワード ポリテイクス、認識論、政策研究、方法論、英語教育